

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 263045-14000					担当教員	石川 英樹 (イシカワ ヒデキ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／課題解決型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要	<p>栃尾高校の生徒の皆さんや栃尾地区の地域活動団体などと協働し、地域イベント活性化、地域の魅力発信などに取り組む。その活動を通じて、地域経済・プロジェクト管理手法・地域ブランディングなどについて学ぶ。さらに社会人基礎力を醸成してキャリア開発につなぎ、就業力向上への寄与も意図した授業である。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連	<p>地域社会に貢献する姿勢／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項	<p>地域活性化アドバイザーや随時栃尾高校を始め地域の方々のご意見等も踏まえて、ゼミ内で議論し具体的な取り組み内容を確定する予定である。学内にとどまらず、栃尾地区などでのフィールドワークに積極的に取り組んでいく。さらに、本年度は地域活動のビジネスモデル検討にも挑戦したい。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目	<p>「ゼミナールⅠ（前）」「ゼミナールⅠ（後）」「ゼミナールⅡ」</p>
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安	<p>(i) 設定された地域課題に対する活動を企画し実行できる。 (ii) 活動成果をプレゼンテーションおよび最終報告書として適切に表現できる。 (iii) 将来のキャリアの目標実現にむけてゼミ活動を位置づけて取り組むことができる。</p>
⑥ テキスト（教科書）	<p>特に指定しない。毎回レジュメを配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書	<p>過去の地域活性化プログラムの活動報告書。さらに必要に応じて授業中に随時紹介する。</p>

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 地域課題に対する活動の企画・実行	活動の企画立案・実施計画策定を実行で、グループ全体を取りまとめられる	グループの方針を理解し、企画立案・実施計画策定に向けて自主的に取り組める	グループにおける指示を受けることで、企画立案・実施計画策定に取り組める	グループにおける指示と教員の助言を受けることで、企画立案・実施計画策定に向け取り組める	グループにおける指示と教員の助言を受けても、企画立案・実施計画策定に向け取り組めない
(ii) 活動成果の表現	活動の成果のとりまとめと発表について、グループ全体のとりまとめができる	活動の成果のとりまとめと発表について、自主的に協力・貢献できる	活動の成果のとりまとめと発表について、指示を受けることで協力・貢献できる	活動の成果のとりまとめと発表について、指示と教員の助言を受けることで協力・貢献できる	活動の成果のとりまとめと発表について、指示と教員の助言を受けても協力・貢献できない
(iii) キャリアの目標実現への取り組み	自身のキャリア目標を明示でき、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を十分説明できる（自己分析・自己PRシート等）	自身のキャリア目標を明示でき、教員の助言の下に、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を説明できる（自己分析・自己PRシート等）	自身のキャリア目標を、教員の助言の下に設定し、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を何とか説明できる（自己分析・自己PRシート等）	自身のキャリア目標を、教員の助言の下に設定できるが、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を十分説明できない（自己分析・自己PRシート等）	自身のキャリア目標を、教員の助言の下でも設定できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	最終報告書・プレゼン資料	合計
総合評価割合			60%		10%		30%	100%
(i) 地域課題に対する活動の企画・実行			50%					50%
(ii) 活動成果の表現					10%		30%	40%
(iii) キャリアの目標実現への取り組み			10%					10%
フィードバックの方法	毎回の授業で、討論や諸活動の成果等について講評する。ルーブリックを活用し評価を共有する。提出課題等は評価し返却。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
ゼミのアドバイザーからのご指導及びゼミ全体での活動進捗などを確認しながら講義を進めていく。	

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	活動概要の検討。課題レポートの作成	60分
2	取り組み内容の討論、グルーピング	栃尾地域の様々な資源について情報収集と整理、次週フィールドワークの準備	60分
3	栃尾地区の視察・ヒアリング等のフィールドワーク～栃尾地区の現状把握・課題抽出	フィールドワークの情報整理、次週の栃尾高校との共同授業の準備	60分
4	栃尾高校との共同授業①（高大混成グループ分け、自己紹介、アイデア出しの議論）	栃尾地域の様々な資源について情報収集、栃尾高校共同授業のふりかえりレポート作成	60分
5	栃尾高校との共同授業成果の議論、まちなかイベントと栃尾PR事業のアイデア出しと企画の討論、活動スケジュール表作成	イベント・PR事業に活用すべき地域資源の検討、空き家活用策関連の情報収集	60分
6	栃尾地区の視察・ヒアリング等のフィールドワーク～栃尾地区の地域資源活用の具体化	フィールドワークの情報整理、イベント・PR事業の企画の詰めの案準備	60分
7	イベントと栃尾PR事業の企画の具体化に向けた企画案の完成に向けた討論	ディスカッションふりかえりレポートの作成、次週の栃尾高校共同授業の準備	60分
8	栃尾高校との共同授業②（イベントとPRの2つに分かれ共同グループワークで打ち合わせ）	共同授業の成果の取りまとめレポート作成	60分
9	栃尾高校との共同授業成果についての議論、イベントとPR取り組みの企画案詰め討論、担当グループの編成	ディスカッションふりかえりレポートの作成、各担当班の業務整理の文書作成	60分
10	チーム別・担当班別のフィールドワーク（ヒアリング等情報収集）の実施	フィールドワークの報告書作成	60分
11	フィールドワークの振り返り、イベントと栃尾PR事業の企画の具体的な作業と打ち合わせ	ディスカッションふりかえりレポート作成、班別の作業成果の整理、次週の栃尾高校共同授業の準備	60分
12	栃尾高校との共同授業③（イベントとPRの2つに分かれ共同グループワークで打ち合わせ）	共同授業の成果の取りまとめレポート作成、中間報告の構成の検討	60分
13	栃尾高校との共同授業成果についての議論、チーム別の中間報告の検討	中間報告の作成準備	60分
14	中間報告のとりまとめ作業、イベントとPR取り組みの企画案詰め討論、担当グループ別の討論と作業	中間報告の作成準備	60分

15	ゼミ内での中間報告会実施（アドバイザー招聘）、班別に今後の進め方の見直し討論	中間報告の完成、中間報告のふりかえりレポート作成	120分
16	イベントとPR取り組みの企画案詰め討論、担当グループ別の討論と作業	ディスカッションふりかえりレポート作成、班別の作業成果の整理、次週のフィールドワークの準備	60分
17	チーム別・担当班別のフィールドワーク（ヒアリング等情報収集）の実施	フィールドワークの報告書作成	60分
18	フィールドワークの振り返り、イベントと栃尾PR事業の企画の具体的な作業と打ち合わせ	ディスカッションふりかえりレポート作成、班別の作業成果の整理、次週の栃尾高校共同授業の準備	60分
19	栃尾高校との共同授業④（イベントとPRの2つに分かれ共同グループワークで打ち合わせ）	共同授業の成果の取りまとめレポート作成	60分
20	栃尾高校学園祭等のふりかえり、イベントと栃尾PR事業の企画の具体的な作業と打ち合わせ	ディスカッションふりかえりレポート作成、班別の作業成果の整理	60分
21	イベントと栃尾PR事業の企画の具体的な作業と打ち合わせ	ディスカッションふりかえりレポート作成、班別の作業成果の整理	60分
22	イベント企画、PR事業企画の最終の詰めと準備	各企画実施の最終準備作業	120分
23	イベント企画、PR事業企画の実施	イベント企画、PR事業企画実施のふりかえりレポートの作成	60分
24	成果発表会の準備～発表内容の打ち合わせ	プレゼンテーション資料の作成作業	60分
25	成果発表会の準備～発表資料類の調整	プレゼンテーション資料の完成と発表原稿の作成	60分
26	成果発表会の準備の仕上げ	発表原稿の完成と発表の練習	120分
27	成果発表会のふりかえり、次年度の課題の抽出	報告書原稿の執筆	60分
28	成果報告書原稿作成～個人別作業	報告書原稿の執筆	120分
29	成果報告書原稿作成～チーム別作業	報告書原稿の執筆	120分
30	次年次計画の作成、成果報告書原稿作成～全体での調整	次年度計画書と報告書の原稿完成	60分

⑫ アクティブラーニングについて

課題解決型AL及び協同学修型ALを採用する。共同でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を培っていく。年度後半に、成果報告会での発表と成果報告書の作成を共同で行い「社会人基礎力（チームで働く能力）」を醸成する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性